

---

Oral presentation

## [B] Taxonomy, Morphology, Histology

Fri. Mar 29, 2024 1:30 PM - 6:00 PM Site B (Hagi)

---

3:15 PM - 3:30 PM

### [B-18]朝鮮半島産エンマムシ科甲虫の分類学的再検討と日本産との比較

○Masahiro Ohara<sup>1</sup>, Kee-Jeong Ahn<sup>2</sup> (1. Hokkaido University, 2. Chungnam National University)

朝鮮半島のエンマムシ科（鞘翅目）は Heyden (1887)の記録から始まり、現在までに77種（2未記載種を含む）が知られている。2010年代から Ohara &Ahnにより数本の論文が出され、また2019年に Seung &Leeが3本の論文をまとめたことから、半島の種構成がかなり把握されるようになった。日本のエンマムシ科については、現在126種（5未記載含）が知られ、大原（2022[2023]）の昆虫目録が出版され、分布などの整理も行われた。本講演では、朝鮮半島のエンマムシ科の研究史と種構成を紹介する。また半島を北朝鮮、韓国、済州島に区分し、日本を北海道、本州、四国、九州、琉球に区分し、それぞれの共通種割合などの比較結果を報告する。半島と日本では55種の共通種があり、半島の種の71%が日本にいることになる。北海道、本州、四国、九州、琉球では、それぞれ46, 62, 53, 62, 19%の割合が半島と共通であり、特に本州と九州に共通種が多かった。また特異な分布をもつ種や、分類上の問題をもつ種についても論ずる。